

路面電車乗り入れを含めた 岡山駅前広場のあり方検討について

検討資料 【本編】

【本編】：目次

1. デザイナーの選定結果	1
2. デザイン部会の設置	6
3. レイアウトの修正計画案	7
4. 都市計画の手続き	12
5. 今後のスケジュール	13

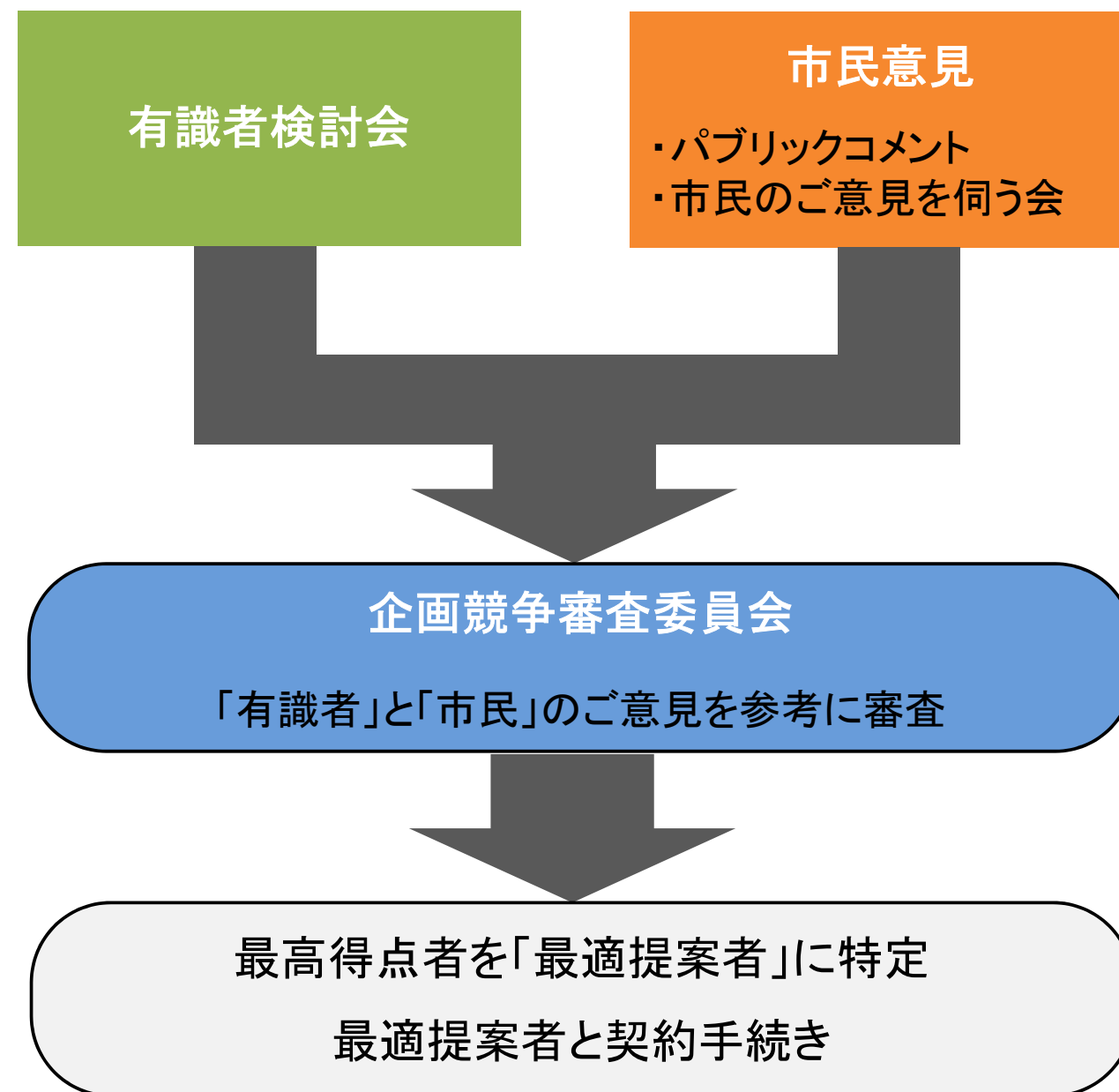


- 前回の検討会で提示いただいたレイアウト計画案をベースに、駅前広場デザインについてプロポーザル方式でデザイナーを公募した。
- 6者から応募があり、デザイナー選定にあたっては、有識者や市民の意見を参考とした。
- 審査の結果、C社の一級建築士事務所弥田俊男設計建築事務所を最適提案者に選定した。

<デザイナー公募日程>

項目	日程等
デザイナーの公募	<ul style="list-style-type: none"> ・選定方式:プロポーザル方式 ・募集期間:平成30年6月22日(金)～平成30年8月17日(金) ・特定テーマ①:市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン ・特定テーマ②:駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保 ・提案者数:計6者
パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・募集期間:平成30年10月9日(火)～平成30年11月2日(金) ・意見概要:本編P2、資料編に掲載
市民のご意見を伺う会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回:平成30年10月25日(木) 14:00～15:00 ・第2回:平成30年10月26日(金) 10:00～11:00 ・意見概要:資料編に掲載
有識者検討会	平成30年11月8日(木)
企画競争審査委員会	平成30年11月8日(木)

<デザイナー審査工程>



<審査の採点結果>

A社	B社	C社	D社	E社	F社
2,026点 ／3,000	1,931点 ／3,000	2,634点 ／3,000	1,811点 ／3,000	1,843点 ／3,000	2,049点 ／3,000

< C社 提案抜粋 >

特定テーマ1に対する企画提案

● 市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン

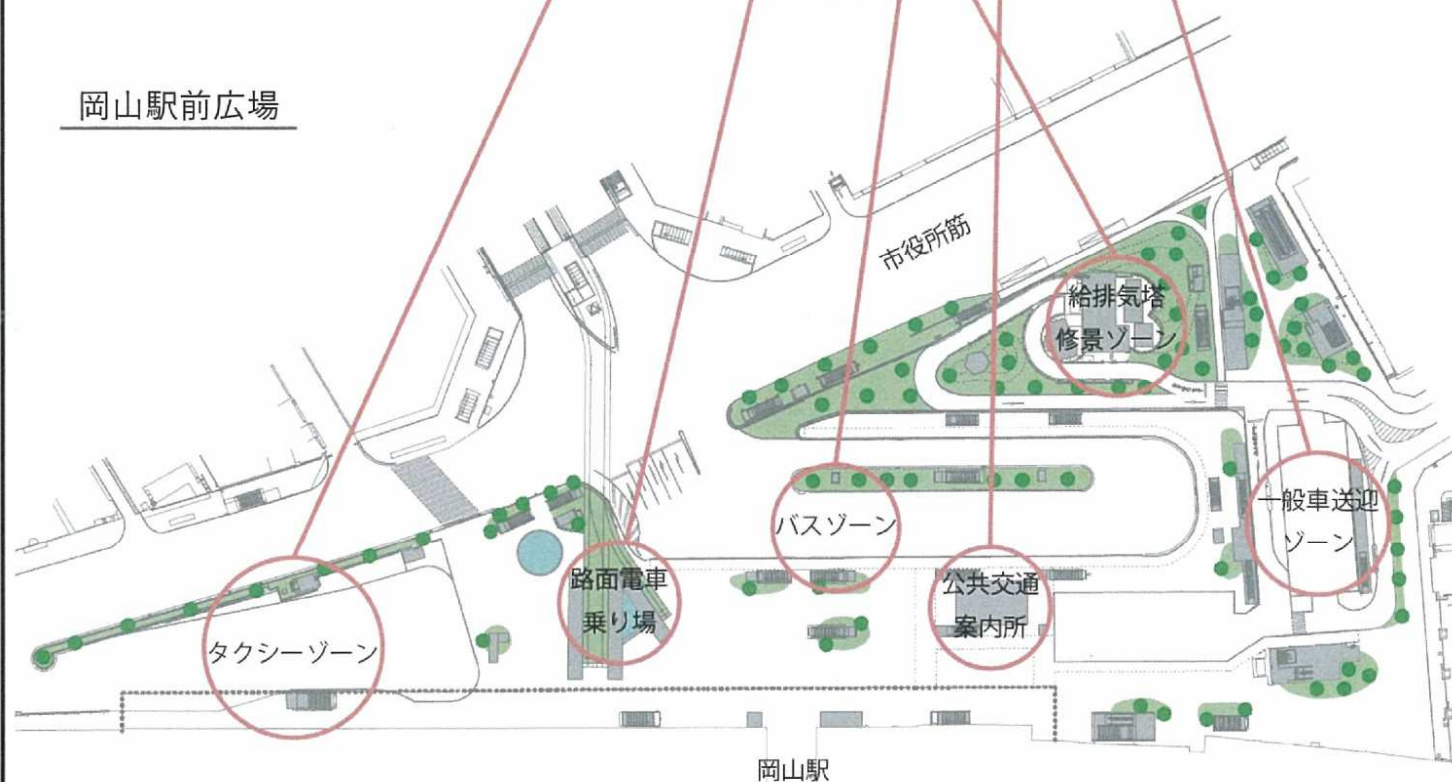
2) 後楽園に「見立て」た、緑あふれる《都市の庭園広場》としての岡山駅前広場デザイン

- ・ 岡山駅前広場を後楽園に「見立て」、立体的な変化に富み、回遊を楽しめる、《都市の庭園広場》としての駅前広場デザインを提案します。
- ・ 岡山駅前広場と後楽園は、ちょうど同じような三角形であり、それぞれに符合する対応関係を見出すことができます。この点に着目し、岡山駅前の要素を後楽園に「見立て」た駅前広場デザインを提案します。
- ・ JR岡山駅も岡山城に「見立て」、駅前広場と一体となったリデザインを検討します。

後楽園



岡山駅前広場



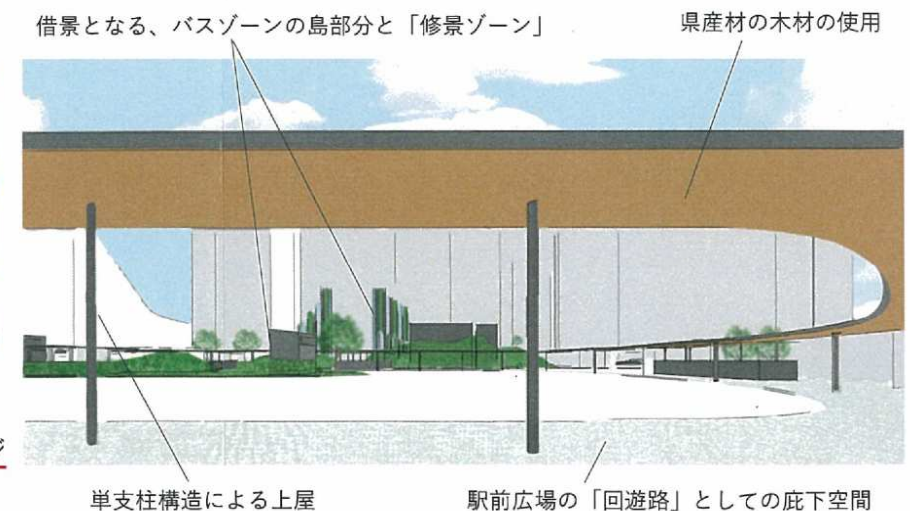
● 3つの池（沢の池／花交の池／花葉の池）に「見立て」た、3つの自動車ゾーン

- ・ 駅前広場の3つの自動車ゾーンは、後楽園の3つの池にちょうど「見立て」ることができます。一番大きな「沢の池」はバスゾーン、「花交の池」はタクシーゾーン、「花葉の池」は一般車送迎ゾーンに見立てられます。
- ・ バスゾーンにある島状の場所は、沢の池の「中の島・御野島・砂利島」に見立てて修景します。
- ・ バス乗り場やタクシー乗り場などに架かる底下の空間は、後楽園の園路のような、駅前広場の色々な景色を楽しめる回遊路です。
- ・ バス乗り場などの天井仕上げには、県産材の木材の使用を提案します。自然のあたたかみを感じられる駅前広場となります。
- ・ バス乗り場などの上屋は、単支柱によるすっきりとした構造とし、これからの岡山にふさわしい洗練されたデザインとします。



沢の池

バス乗り場の提案イメージ



借景となる、バスゾーンの島部分と「修景ゾーン」

県産材の木材の使用

単支柱構造による上屋

駅前広場の「回遊路」としての底下空間

< C社 提案抜粋 >

特定テーマ1 に対する企画提案

● 市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン

● 延養亭に「見立て」た、交通案内所 兼 待合所

- 交通案内所 兼 待合所は、延養亭に「見立て」たデザインを提案します。
- 延養亭が想起され、広場の人々の目に止まりやすいような、入母屋屋根を切妻と寄棟に分割した屋根デザインとして、人々が気軽に立ち寄りやすい4面ガラスのデザインとします。
- 天井仕上げには、県産材の木材の使用を提案します。



延養亭



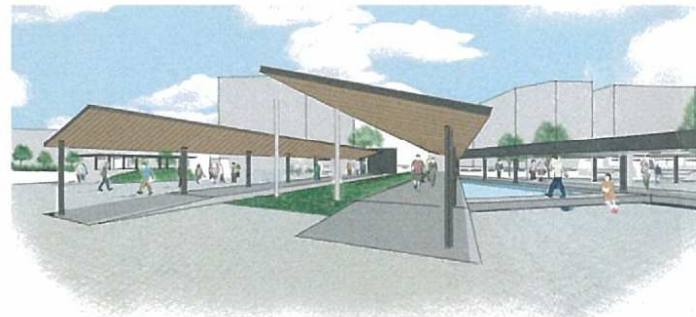
交通案内所 兼 待合所の提案イメージ

● 流店に「見立て」た、路面電車乗り場

- 路面電車乗り場は、流店に「見立て」たデザインを提案します。
- プラットフォームにはさまれた軌道部分は、流店の引き込まれた水路の「見立て」としての軌道緑化をすることで、岡山市街への起点を印象付けます。プラットフォーム間の三角形部分には水盤を提案します。
- 路面電車の屋根は、片支柱で支えられた片流れ屋根の組合せとし、流店を想起させるデザインを提案します。
- 天井仕上げには、県産材の木材の使用を提案します。



流店



路面電車乗り場の提案イメージ

● 後楽園内に点在する亭舎に「見立て」た、地下街との連絡階段

- 駅前広場に点在する地下街への連絡階段は、廉池軒や茶祖堂など後楽園内に点在する亭舎に「見立て」ます。
- 連絡階段の屋根の庇をのばし、県産材の石等のベンチを置き、植栽と一体的にデザインすることで、駅前広場に点在する障害物だった連絡階段は、駅前広場に点在する緑と憩いの休憩スペースとなり、人々の「居場所」を生み出します。
- 天井仕上げには、県産材の木材の使用を提案します。



廉池軒



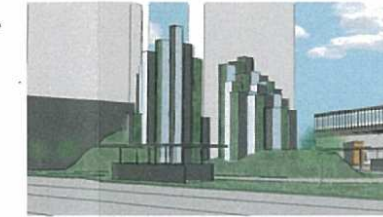
現在の地下街との連絡階段



連絡階段の提案イメージ

● 唯心山に「見立て」た、給排気塔のある「修景ゾーン」

- 特徴的な給排気塔がそびえ立つ修景ゾーンは、唯心山に「見立て」て、築山を整備します。立体的な緑のランドスケープによって既存の空調設備等を隠しながら、駅前広場の新たなビューポイントとなります。
- 給排気塔は、その特徴的な形状を活かして、駅前広場の新たなランドマークとなるようなデザインを提案します。例えば、六角形の各面に「ミラー」「緑」「ダークグレー色」といった素材や色を施すことで、周囲の景色が映り込んで、景観に溶け込み一体化するようなデザインを検討します。
- 夜にはライトアップし、塔の内側からも空へ光をうち、印象的な岡山の夜景を演出することも検討します。
- 「修景ゾーン」は、後楽園内で様々な季節の移ろいを楽しめるように、色とりどりの植栽で立体的に緑化し、四季折々の散策を楽しめるデザインを提案します。



給排気塔のデザイン案



給排気塔の夜景イメージ



唯心山

「修景ゾーン」の提案イメージ



● 岡山城に「見立て」た、駅前広場と一体となった岡山駅のリデザイン

外観デザイン

- 岡山駅の外観は「烏城」と呼ばれる岡山城に「見立て」て、現状の駅舎の色を風格のあるダークグレー色とすることで、漆黒の下見板張りを想起させる「岡山らしい」洗練されたデザインに生まれ変わらせることを提案します。
- ダークグレーの外観は、かつての岡山駅の外観の記憶を呼び起こすデザインにもなります。

大屋根の新設

- 駅舎に大屋根の新設を提案します。大屋根の下に生まれる軒下広場は、半屋外の縁側のような空間となり、タクシーゾーンから一般車送迎ゾーンまでをつなぐ、にぎわいの交流空間となります。
- 大屋根は、既存の庇を撤去し、東西連絡通路の天井高さに合わせて設置することで、東西連絡通路から岡山市街への風景の見通しが良くなり、軒下広場は駅前広場にふさわしい都市的スケールのパブリック空間となります。
- 大屋根の軒天井仕上げには、県産材の木材の使用を提案します。



駅前広場と一体となった岡山駅の提案イメージ



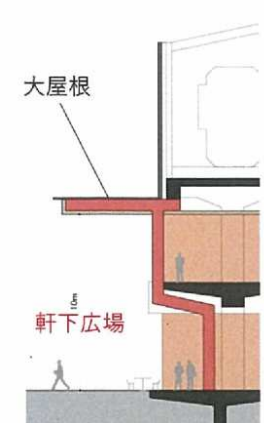
岡山城の下見板張り



昭和50年頃の岡山駅



東西連絡通路からの見直し



大屋根の断面イメージ

< C社 提案抜粋 >

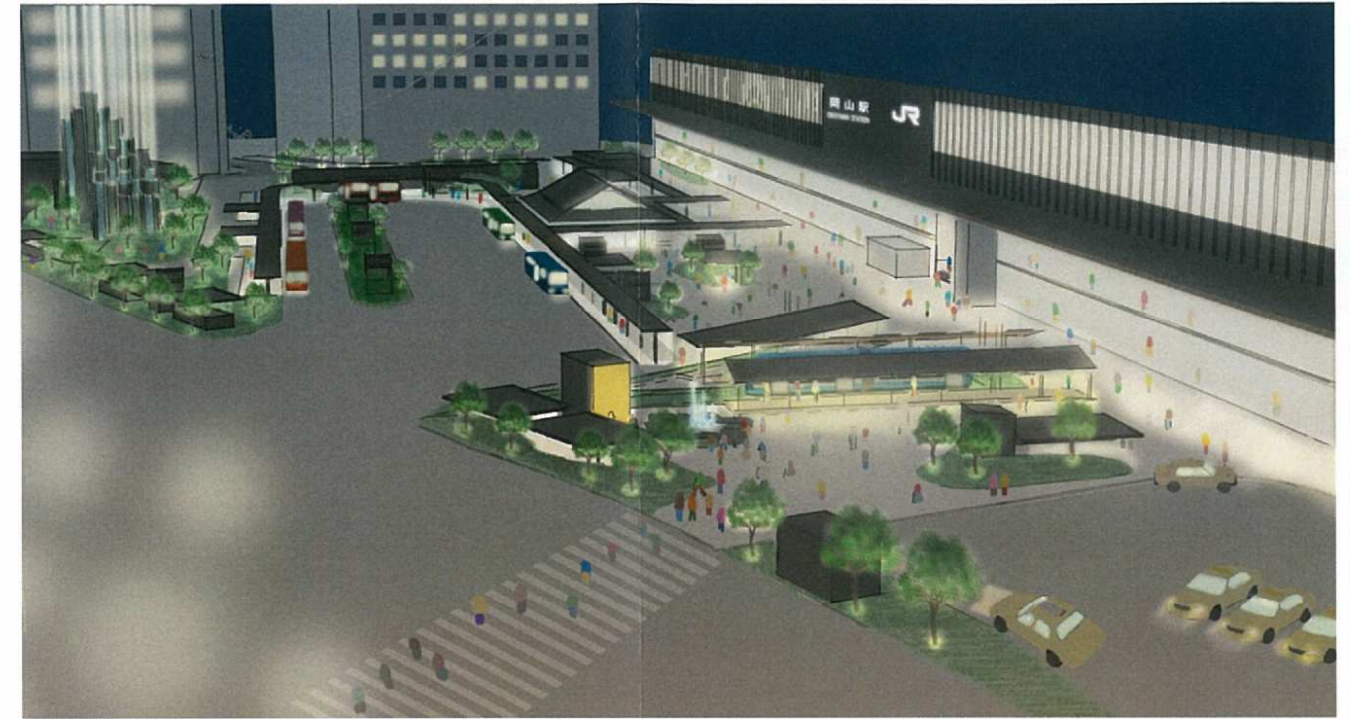
特定テーマ1 に対する企画提案

● 市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン

● 岡山駅前広場 提案イメージパース



JR 岡山駅の大屋根側から見た、岡山市街へのビューへと開かれ、緑の憩いスペースが点在する、にぎわい拠点としての広がりある「シンボル広場」。
岡山駅前広場に点在する「緑と憩いの休憩スペース」は、瀬戸内海に浮かぶ「多島美」（アーキペラゴ）も想起できるようなデザイン提案です。



北側から見た、やわらかな光でライトアップされた駅前広場の夜景。
照明デザインは、市民や来訪者に安全で印象的なあたたかみのある、夜の《にぎわい拠点》に配慮した計画を提案します。



東側から見た、緑あふれる「修景ゾーン」と駅前広場の全景。
「修景ゾーン」は、岡山市街からも緑のランドマークとなり、緑あふれる岡山駅前広場というイメージを与えます。



北側から見た、「シンボル広場」や「交通拠点広場」のにぎわいに溢れる、緑豊かな駅前広場の全景。
岡山駅前広場と JR 岡山駅が統一感のあるデザインでまとめられ、一体となった都市のにぎわいを生み出します。

<C社> 最適提案者

得点 2,634 / 3,000点

有識者の意見概要

- ・造形のコンセプトが明確であり、市民に対しても説明しやすい計画案といえる。
- ・実現性の高い案である。
- ・提案内容が、等身大プラスαとなっていることに好感が持てる。
- ・岡山駅前広場としても、提案者の感覚としても違和感がない。
- ・シックなビジュアルに期待が高まる。
- ・岡山らしさが明確である。
- ・建築ではなく、人が主役というところに重きを置いているところがよい。
- ・駅内のリノベーションを一緒に考えていることは評価できる。
- ・実現性がある。
- ・人が主役であることは重要で、特にユニバーサルデザインの視点は大変評価できる。
- ・周辺の街のビル群とのマッチを感じることができると不安。
- ・本物の後楽園があるのに、岡山駅を後楽園に見立てる意味がわからないが、「人が主役」というコンセプトが反映されていて、落ち着いたわかりやすい構成・デザインになっている。
- ・後楽園にあまりとらわれず、もう少し、岡山の未来を予感させる要素があれば、とても良い提案になると思う。
- ・岡山らしさに対する情熱がある。
- ・地下街対応、コストパフォーマンスもしっかりしている。
- ・回遊施策も考えられている。
- ・20~30年後の改装もやりやすく思う。
- ・非常に具体性がある計画である。
- ・岡山駅前広場を後楽園に見立てるという発想は素晴らしい。そこがもっと強調できる工夫があれば、もっと良くなる。
- ・岡山駅との一体感は評価できる。
- ・現実的な案ではあるが、少し物足りない。
- ・本質的な岡山らしさは「ありのままの岡山らしさ」。パブリック空間の演出。
- ・現在、駅を降りて、後楽園を感じとる事ができないのは同感。
- ・市内の回遊性向上を考え、人が主役の交通拠点が岡山駅前広場という考え方が良い。
- ・軒下広場をもう少し広く取ることができれば良い。
- ・シンボル広場に屋根がないのであれば、軒下広場の広さがやはり重要。
- ・最初の図画では、あまり感心しなかったが、コンセプトがとても良く、これからのプラスの面を期待したい。
- ・大屋根設置については、構造等の十分な検討が必要。
- ・追加の柱を駅前広場に設置するなら、地下街への影響検討が必要。
- ・駅舎の色は、岡山城をイメージしているとのことだが、黒っぽい色は暗い雰囲気になることを懸念する。
- ・和風なデザインは、類似事例が多い。当案も、津山駅と似ている印象を受ける。
- ・大規模な設備新設に頼らない計画は、コスト面で評価できる。

市民の意見概要(パブリックコメント)

- ・中途半端な感が否めなかったり、岡山市のコンセプトをもとにしたデザインも強引さが目立ち、周囲の景観とマッチしていない。
- ・外国人の立場から見ると、Plan Cが一番面白い。伝統的で岡山らしい。
- ・外国人観光客に受けが良さそう。都市ビジョンの庭園都市にも合う。岡山駅外観とのバランスがよい。
- ・外国人観光客を意識するなら、C案のように個性を出すのがよい。
- ・シンプル且つ岡山の大きな要素である「後楽園」、「岡山城」を要素に入れていて、且つ広場だけではなく、岡山駅舎を含めたデザインが成されている点を大きく評価したい。C案を推薦する。
- ・岡山駅ならではの風景にならない。
- ・我々が提案している後楽園イメージの取り入れに最も近いプラン。大筋岡山駅正面のイメージとして、後楽園・岡山城への動線確保として、望ましいプラン。各ゾーンを後楽園の池のパーツ、芝生、建物をイメージさせている。
- ・後楽園の流店はコンパクトで、電車待ちやバス案内場や待合スペースのデザインの基礎にしやすい。
- ・芝生軌道や芝生広場は、管理が難しいが、駅前広場に取り入れるといい。流店そばの池のイメージに噴水を重ねれば、「噴水で集合」とわかりやすい。
- ・駅舎デザインは元々岡山城の焦茶色だったが、岡山城の「金烏城」のイメージで塗り直すのがいい。
- ・岡山駅から城下までの路面電車軌道は芝生軌道とし、鹿児島市のように岡山市公園緑地課が公園の位置づけで管理すると後楽園までの道のりが来訪者すべてにわかる。
- ・バリアフリーの勾配計算は丁寧で素晴らしい。
- ・多人数が通行するには、樹木が多すぎ。広場の維持管理にも問題がある。
- ・京都や金沢、倉敷のような伝統的な街並みが残っている街のための案。岡山でこのようなデザインを採用しても、他所から笑われる。
- ・岡山の玄関口と岡山の最大の観光資源である後楽園が視覚的イメージで繋がることは、後楽園のPRに大変大きな効果があると考えられる。岡山駅を降りた観光客が駅前の景色を見て、後楽園への期待感を膨らませて、路面電車の後楽園へ向かうというおもしろいストーリーができる。以上のことから、C案に期待する。
- ・C案は、岡山城をイメージしたデザインでもあり、寺や神社に人が集まる日本人の習慣にもあってよさそうだが、周囲の建物に和風建物が無い中で、バランスがとれていないと思う。

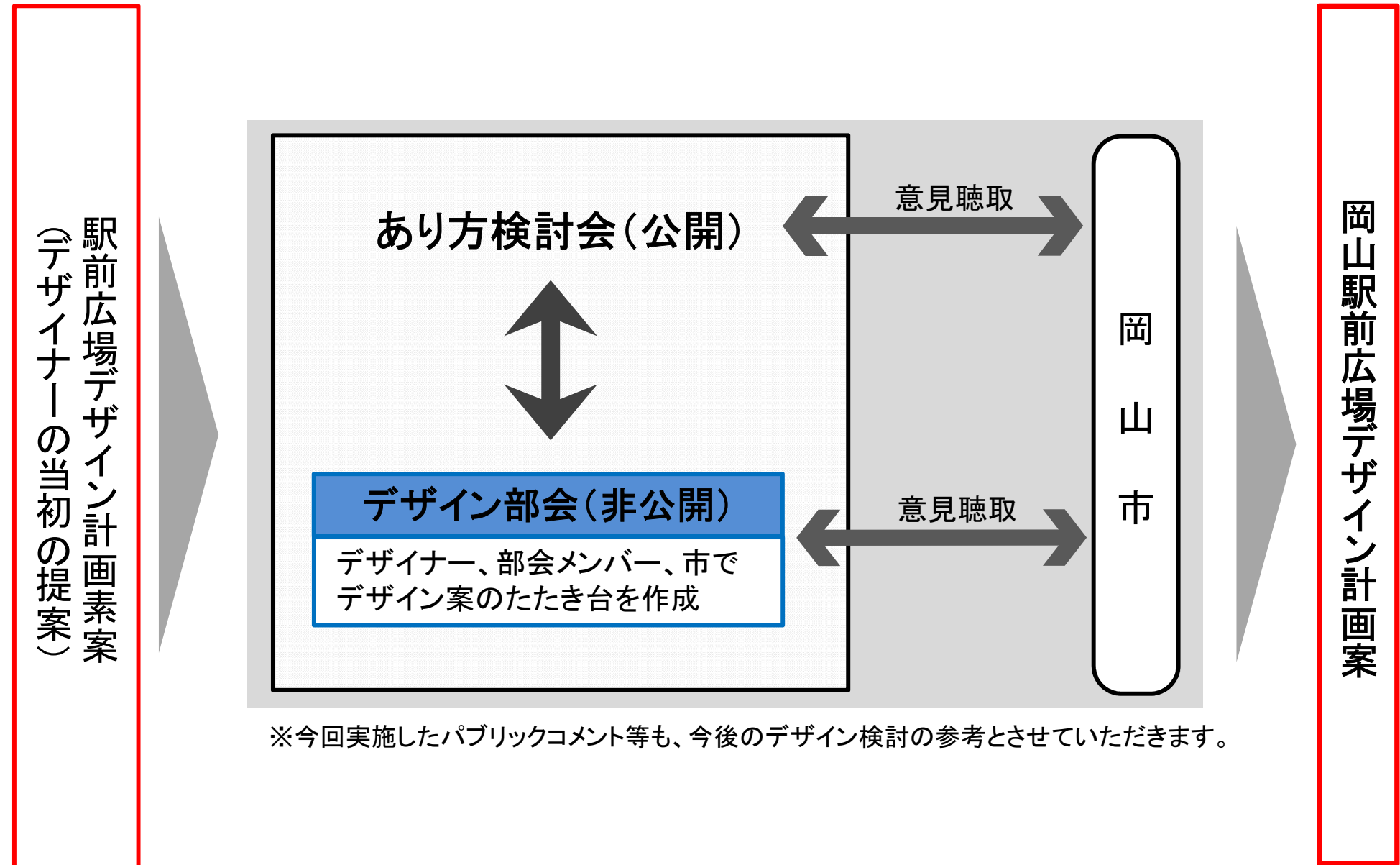
デザイン検討の進め方

- デザイン検討を進めるにあたり、デザイン部会を設置し、選ばれたデザイナーとともに具体のデザインを検討する。
- デザイン部会の位置付け及びメンバー（案）は以下のとおり（規約は別紙参照）。

<デザイン部会メンバー（案）>

所属	職名	氏名	備考
ノートルダム清心女子大学	教授	上田 恭嗣	あり方検討会（景観）
岡山県立大学	准教授	齋藤 美絵子	景観審議会
NPO法人まちづくり推進機構岡山	理事	徳田 恭子	景観審議会
(一社)岡山県建築士会	女性部会顧問	大丸 和子	景観審議会
おかやま観光コンベンション協会	専務理事	西 正尚	あり方検討会（観光）
商工会議所都市交通委員会	委員長	若林 昭吾	あり方検討会（経済界）
商工会議所女性会	会長	高田 美紀子	景観審議会
西日本旅客鉄道(株)岡山支社	企画課長	久保 聡志	あり方検討会（土地所有者）

<デザイン検討の進め方>



●前回の検討会で絞り込まれたレイアウト計画案を下記に示す。

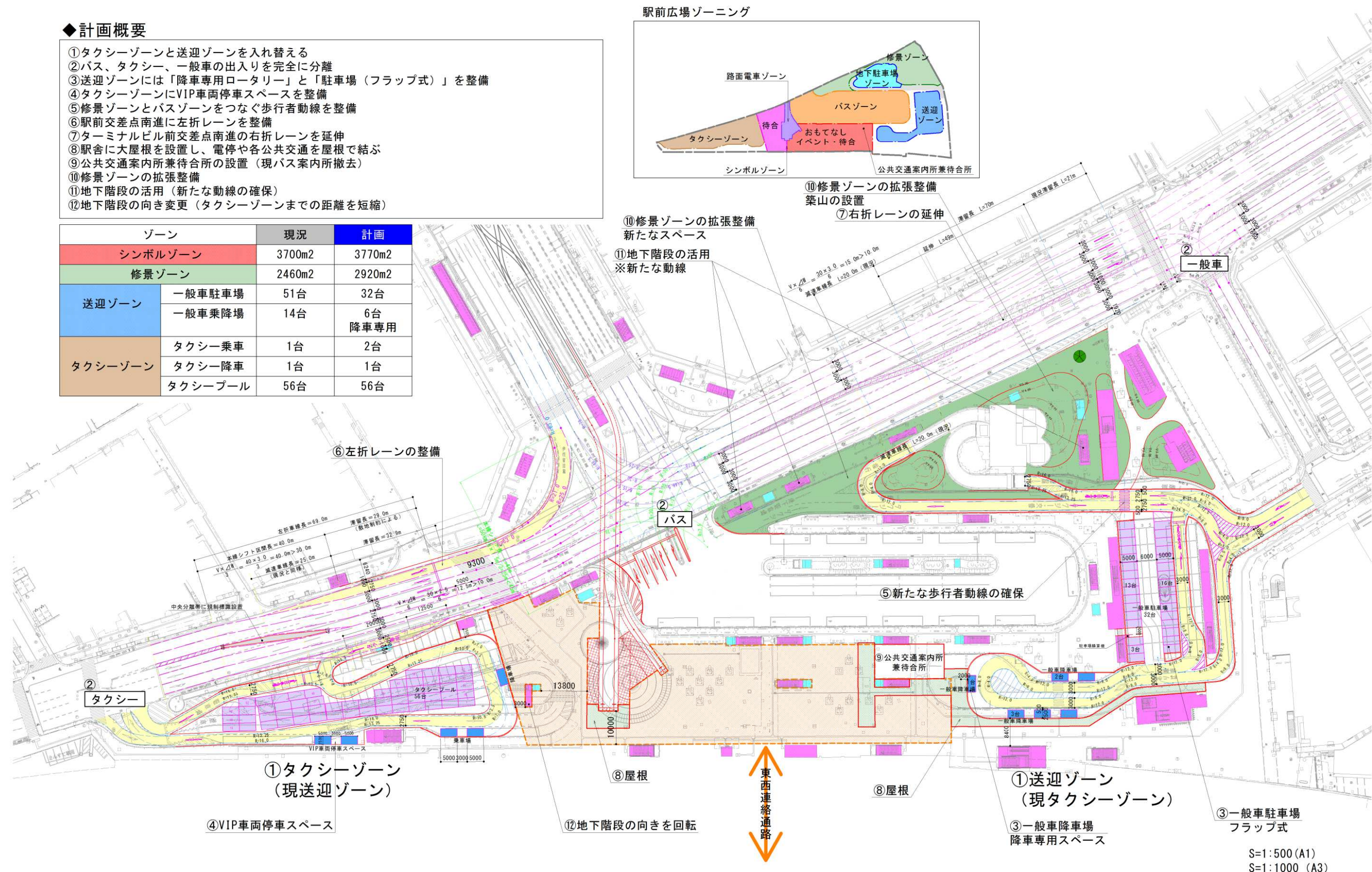
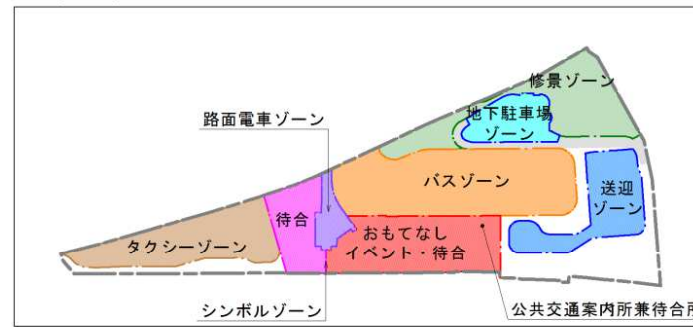
●関係機関との協議の結果、タクシーゾーン、路面電車ゾーン、送迎ゾーン、駅前交差点において修正を行った（次頁参照）。

◆計画概要

- ①タクシーゾーンと送迎ゾーンを入れ替える
- ②バス、タクシー、一般車の出入りを完全に分離
- ③送迎ゾーンには「降車専用ロータリー」と「駐車場（フラップ式）」を整備
- ④タクシーゾーンにVIP車両停車スペースを整備
- ⑤修景ゾーンとバスゾーンをつなぐ歩行者動線を整備
- ⑥駅前交差点南進に左折レーンを整備
- ⑦ターミナルビル前交差点南進の右折レーンを延伸
- ⑧駅舎に大屋根を設置し、電停や各公共交通を屋根で結ぶ
- ⑨公共交通案内所兼待合所の設置（現バス案内所撤去）
- ⑩修景ゾーンの拡張整備
- ⑪地下階段の活用（新たな動線の確保）
- ⑫地下階段の向き変更（タクシーゾーンまでの距離を短縮）

ゾーン	現況	計画	
シンボルゾーン	3700m ²	3770m ²	
修景ゾーン	2460m ²	2920m ²	
送迎ゾーン	一般車駐車場	51台	32台
	一般車乗降場	14台	6台 降車専用
タクシーゾーン	タクシー乗車	1台	2台
	タクシー降車	1台	1台
	タクシープール	56台	56台

駅前広場ゾーニング



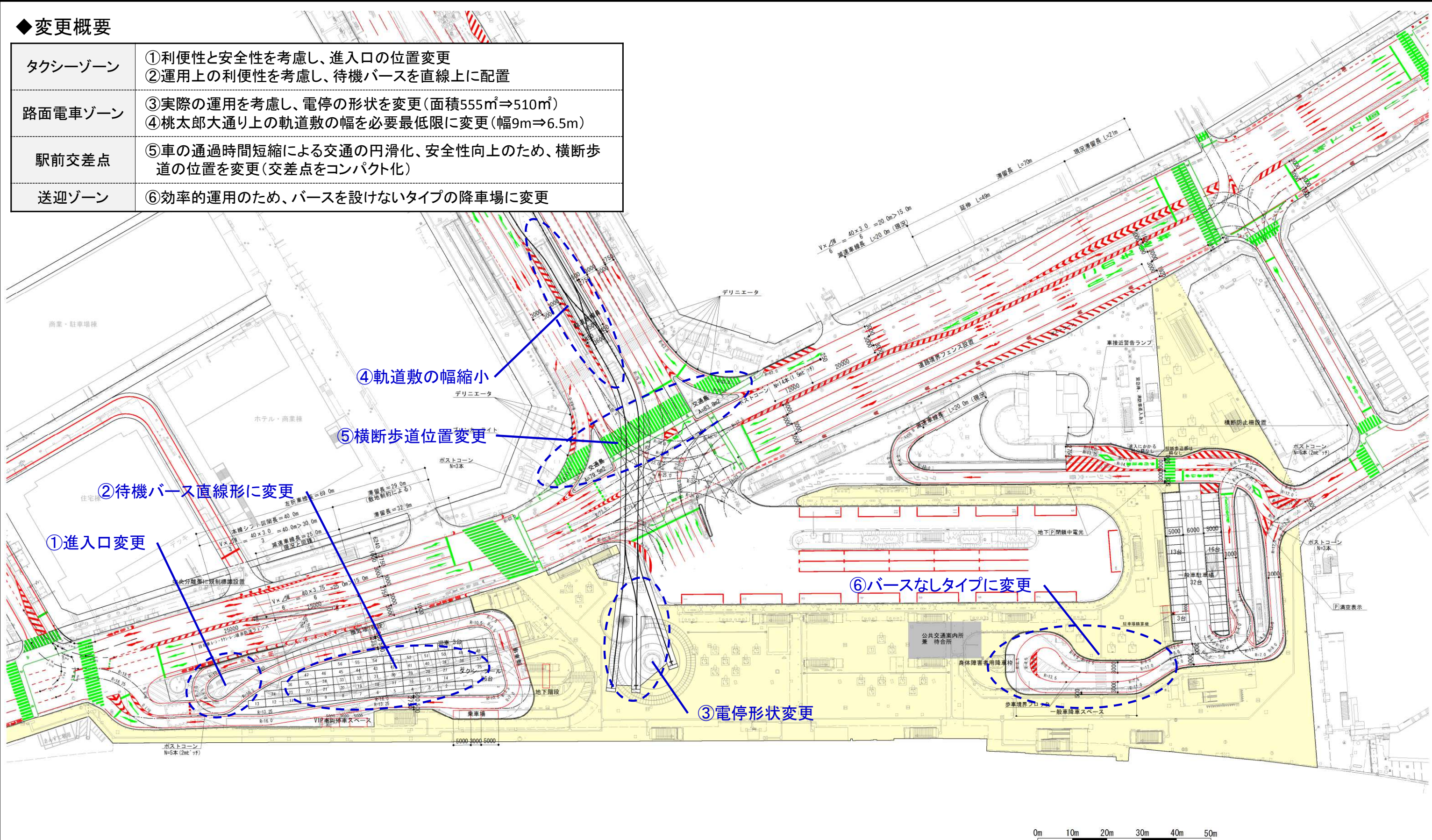
5/22 レイアウト計画案

S=1:500 (A1)
S=1:1000 (A3)

●レイアウトの修正計画案を下記に示す。

◆変更概要

タクシーゾーン	①利便性と安全性を考慮し、進入口の位置変更 ②運用上の利便性を考慮し、待機バースを直線上に配置
路面電車ゾーン	③実際の運用を考慮し、電停の形状を変更(面積555㎡⇒510㎡) ④桃太郎大通り上の軌道敷の幅を必要最低限に変更(幅9m⇒6.5m)
駅前交差点	⑤車の通過時間短縮による交通の円滑化、安全性向上のため、横断歩道の位置を変更(交差点をコンパクト化)
送迎ゾーン	⑥効率的運用のため、バースを設けないタイプの降車場に変更



レイアウト修正計画案